

ASEP-WYM オンラインで継続実施した意義と課題

大阪市立東高等学校 池田明

2020年度は、折からのコロナ禍で、学校間交流は多くの取り組みが中止を余儀なくされている。殊に国際交流に関する取り組みの多くが厳しい状況に置かれているのが現状である。しかしながら、長年にわたって積み重ねてきた台湾高雄市でのASEPと日本でのWYMの一連の国際交流活動については、携わるすべての者が継続することによる積み上げと深まりを実感しており、途切れさせてはならないという思いで一致している。この厳しい状況下で、夏・冬ともにオンラインでの開催となった。今回のASEP2020オンライン大会で見えてきた意義と課題についてまとめてみたい。

1. 継続で感じられた意義

例年、夏開催のWYM2020が約二か月遅れて九月末実施となった。2020年秋口にはコロナ禍の終息がみえない状況から冬のASEPも通常開催が困難な状況が浮かび上がってきた。夏のWYM2020の実施経過を参考にして、完全オンラインでのASEP2020開催という方向性が台湾側からアナウンスされた。その後、情報共有を図りつつ細部の詰めを行い。スケジュールも例年通りの年末実施で、ASEP2020オンライン大会が開催された。

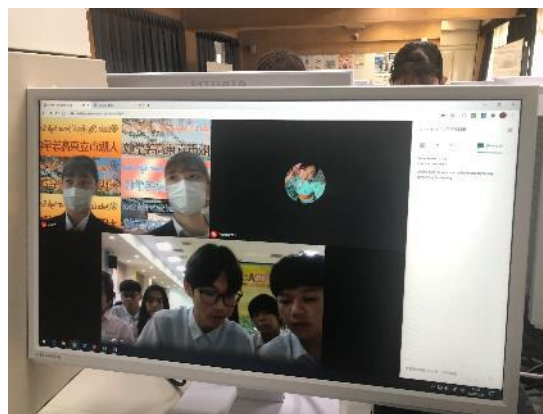
もっとも重要な意義は継続性を確保したことであると思われる。交流は一旦途絶えてしまうと、その後の展開がむつかしく、また積み上げてきた知見も多くを失ってしまう恐れがある。形式は変わったにせよ継続できたことは何よりの収穫である。

また、完全オンライン実施ということで、大会に携わる多くがネットスキルの向上を感じた。さまざまな事情で遅れていたオンライン教育の環境整備や、オンライン実施による経験値の獲得が大いに進んだ。これは、制限された状況下でこそ、逆に実現できた意義である。

2. オンライン開催の課題

一方、オンライン開催が万能であったわけでもない。何よりも、フェイストゥフェイスの交わりがない国際交流活動はその醍醐味が半減するのは否めない。スタッフ教員や国際交流経験のある参加生徒たちは、一様に「やっぱり会って一緒に活動したいね」という感想を持った。画面やスピーカーを通してではないライブの体験はやはり何物にも代えがたい。ライブの空気感がない国際交流は寂しくさえ感じられた。コロナ禍の後には、なるべく早い段階での人的往来を伴う交流を再開したいと切に思う。

実践展開上の課題としては、参加生徒のモチベーション喚起に労力を要することがあげられる。コラボレーションの過程で一度も出会えない参加者同士での協働は、各個人のモチベーションもグループ全体の方向性もなかなか定まらず安定しないというのが実感である。



3. 参加生徒による振り返り

生徒個人の感想に代えて、ポートフォリオで残す記録のために参加生徒が回答したアンケートの一部を紹介したい。(大阪市立東高等学校からの ASEP2020 参加生徒 1-2 年生計 7 名)

Q 1. 記録・記憶として：良かったこと、特に印象に残っていること

* 国際交流の楽しさがわかりました。台湾の人とは英語でチャットして、英語で返信が来た時には自分の英語力に自信がつかえましたし、実際にオンラインで数分顔を合わせたのですが、日本以外の学校でも英語を学んでいる人はいることが改めて知れて、もっと頑張ろうという気持ちと学校という小さなコミュニティの中で英語を使っている私にとって世界は広いんだなあと改めて思いました。

* 短期間だったが、台湾側と繋がり、大きなミスをせずに終われたこと。話した事の無い日本側の人と話せた事。個人的に台湾側と繋がりを持てた事。リーダーとなり、日本側を引っ張ったこと。

Q 2. 今年はオンライン開催となりました。難しかったこと、面白かったこと。海外のメンバーと対面できなかったことについてなど。

* オンラインで開催されたけど、LINE や Instagram でコミュニケーションが取れたし対面できなかったからこそお互いが積極的に話をしたりすることができたので良かったと思います。

* 今年はコロナにより、本来なら、直接会えるはずなのに会えずに大会を迎えてしまうのが少し悲しかったけれど、このことが来年の ASEP 参加のモチベーションになりました。来年は台湾側の学校と対面で大会に出場したいです。

* どのような風にビデオを使ったら良いのかがいまいちわからなかった。また、相手の高校が何を求めているのかがあまりわからなかった。

* オンラインでの会議での FAQ の時に騒音が酷く、台湾側かなんと言っているか聞き取れなかった点が難しかったです。台湾側と対面は出来なかったけど、個人的に SNS で繋がり、文化等の意見を交換できた。

Q 3. 今後の課題：うまくいかなかったこと？次の機会にはどうしたらうまくいくと思いますか？

* 英語での意思疎通が難しく、対応できなかった部分が沢山あったことです。

* 直接会えない分、自分達が何をすべきかが分かりにくかったり、台湾側の学校との情報の行き違いなどがあり、大変でした。

* 自分たちで文章の内容を考えられなかったりしたり、文法が分からなかったり単語がわからなくなったので、もっと英語のレベルを高めるとともに積極的にいきたいなと思いました。

Q 4. 学んだこと、考えたこと：今回の活動を通じて、どんなことを考え学びましたか？

* 相手になんと言えればよりわかりやすく伝わるか、という事を 1 番に考えました。しかしあまり上手くいかなかったので次回はまず伝える事を先決していきたいです。

* 1つのテーマについて、英語で話し、相手に伝えることの難しさを学びました。

* 英語の楽しさがわかりました。これまで中学、高校 1 年間と英語を学んできましたが、学ぶだけで実践する機会がありませんでした。いわゆる知識として私の頭の中にあっただけですが、今回それを使う機会があったので、英語の授業の考え方が変わったり取り組み方が私の中で変わりました。もっと上手く発音しないと伝わりにくかったり、沢山単語を知っていた方が話せたりするので英語の必要性や人とコミュニケーションすることについて学べたのではないかと思います。

* 言語の壁は思っていたより薄いということ。

Q 5. 今回の経験をどう活かすか：今後、どんなことに、どのように活かしたいですか？

- * 次の機会があればぜひまたチャレンジしたい。ハキハキ話すことが出来ていたのが笑顔で話すことをより意識していきたい。暗記をしっかりしたい。
- * 今後は、今回の ASEP を通じてできた海外の友達とコミュニケーションを取りつつ今回できなかったことをできるようにしていきたいです。
- * 国際交流といえど実際喋ったのは3分程度だったので、学生のうちにもっと沢山のことを経験したいなと強く思うようになりました。
- * 今後、どのような体験をするにしても、今回参加出来たという自信を持っているので、参加の意思表示はしやすくなりました。また、外国の人と沢山話す機会があったので、これからは怯えずに話しかける事ができると思います。



4. 今後の展望

ASEP-WYM の一連の国際交流活動の実践的視座から見れば、一刻も早い人的交流の再開がやはり望まれる。幸いにも、継続性はオンライン開催により担保されているので、国境が開けば人的交流の再開へのハードルも大きくはないと思われる。

2021 年度の開催については、夏の WYM では再度オンライン開催の可能性も含んでの準備となりそうである。ASEP2021 では人的交流を再開したいところではあるが、主催側の事情と各参加国の状況によって当面は実施方法が確定できず流動的になるであろう。

何をおいても積み上げた経験値を途絶えさせないように継続していくことに重きを置いての展開が当面の方針となるであろう。